

小学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

平成14年度

教育研究員名簿

地区	学校名	氏名
新宿	余丁町小学校	武智直貴
目黒	宮前小学校	小暮博美
北	滝野川第六小学校	○小原恵美子
板橋	向原小学校	小林きぬ
練馬	豊溪小学校	○松島康明
足立	綾瀬小学校	◎佐藤利之
江戸川	第七葛西小学校	田中義順
八王子	みなみ野小学校	奥村好子
調布	第二小学校	永田代幸
国立	国立第二小学校	稲富泰輝

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 丸 節 子

目 次

I 研究主題及び基本的な考え方

1	主題設定の理由	2
2	研究主題について	3
	(1) 自分のよさに気付くとは	3
	(2) 本研究で捉えた学ぶ力	3
	(3) 自分のよさに気付くと学ぶ力は高まる	4
3	研究仮説と研究内容	4
4	研究構想図	5

II 学ぶ力を高める指導と評価

1	指導と評価の内容	6
2	学ぶ力の評価規準	7
3	教師の評価	8
	(1) 評価・支援計画の作成	8
	(2) 授業の評価・支援の実際	9
4	子ども自身による評価	10
	(1) 自己評価について	10
	(2) 相互評価について	11

III 実践事例

1	事例1 「活動計画/評価・支援計画」に基づいた実践例（第5学年）	12
2	事例2 子どもの活動を4つの学ぶ力に価値付けする評価の例（第5学年）	15
3	事例3 「学びの道筋カード」を通して一人の子どもの変容を追った例（第6学年）	18
4	事例4 相互評価で活動を振り返り課題を高めていった例（第4学年）	22

IV 研究の成果と今後の課題

1	研究の成果	24
2	今後の課題	24

I 研究主題及び基本的な考え方

自分のよさに気づき、学ぶ力が高まる評価の工夫

1 主題設定の理由

総合的な学習の時間は、試行期間を経て今年度より全面実施となり、各学校では子どもや地域の実態を生かした創意工夫ある学習活動が展開されている。

本部会では、総合的な学習の時間に見られる次の3点について着目した。

- ・主体的に問題を解決する能力や態度を育てるとともに、自分を見つめ、自信をもち、自己の生き方を考えることをねらいとする。
- ・各教科等で身に付けた基礎・基本を総合的に働かせ、生活に結びつけていく実践力を培うことができる。
- ・「何学年でどんな内容を指導するか」や「育てたい力」「評価の観点」などを、各学校が独自に決める。

これらの点を踏まえた上で、今年度の研究主題及び研究内容を設定するに当たり、指導上の課題と子どもの実態についての意見を出し合い、さらに『総合的な学習の時間における実態状況（平成13年度 東京都教職員研修センター編）』を参考にして、次のような課題を見いだした。

【指導上の課題】

- ・学習活動を通して、子どもにどんな力を身に付けさせたいのか明確にする。
- ・一人一人の活動を見取り、その子に応じた支援の仕方を工夫する。
- ・体験的な活動を子どもたちの学びにつなげていく。
- ・評価を行う上での観点や場面、方法を明確にする。
- ・子どもが自分の考えをもつこと、課題の実現性や発展性を見通すこと、活動を振り返って計画を見直すことができるようにする。

上記に示した指導上の課題を解決するためには、子どもが自ら課題を見付け、その解決に向かって学習活動を展開していく中で、教師が個に応じた適切な評価・支援をしていくことが必要である。

なかでも私たちが焦点をあてたのは、課題や学習計画、追究の過程を子どもが自ら振り返り、評価して改善を図りながら、学習を自分自身ですすめたり実践したりすることができるような教師の評価と支援である。この「自ら振り返り、改善し、実践する」という姿勢は、総合的な学習の時間のねらいである「自ら学ぶ力を身に付ける」「自己の生き方を考える」ことにつながる、極めて重要な要素だと考えた。

以上のことを踏まえ、本部会では、子どもが学習活動を進める中で、自分の学びを振り返り、よさに気づきながら、自分自身で学びを確立していけるような評価と支援の内容・方法を明らかにしたいと考え、上記のような研究主題を設定し研究をすすめることにした。

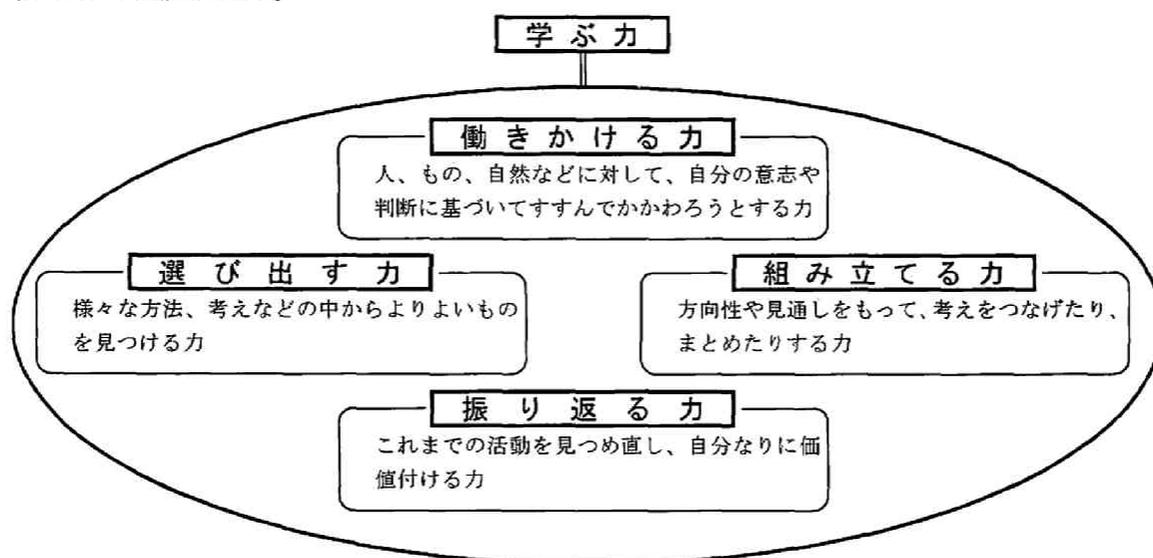
2 研究主題について

(1) 自分のよさに気付くとは

活動を振り返る中で、自分の活動の意味や価値に気付いたり、活動の進め方を確かめたりすること。

(2) 本研究で捉えた学ぶ力

本部会では、総合的な学習の時間を通して子どもが身に付けていく力=学ぶ力を具体的に次の4つに設定した。



4つの力を設定するにあたっては、次の3つの視点に基づいて考えた。

○ 学習過程（※1）のどの場面においても身に付けたい力

子どもが自分の追究してみたい課題を設定したり、さまざまな方法を使って調べたり、わかったことを伝えたりなど、どの学習過程の場面においても必要とされる力であり、また身に付けることができる力であると考えた。

○ 子どもの学ぶ姿がイメージできる

どのような活動内容にも対応し、それぞれの内容に応じて具体的な子どもの姿をイメージすることができる。また「生きる力」を身に付けることを担う総合的な学習の時間を通してこそ、より育むことができる力であると考えた。

○ 子どもの学びの実態に対応している

2年間にわたる総合的な学習の時間の試行期間の中で、学習活動における子どもの実態から、課題と感じている姿を出し合って分析した。

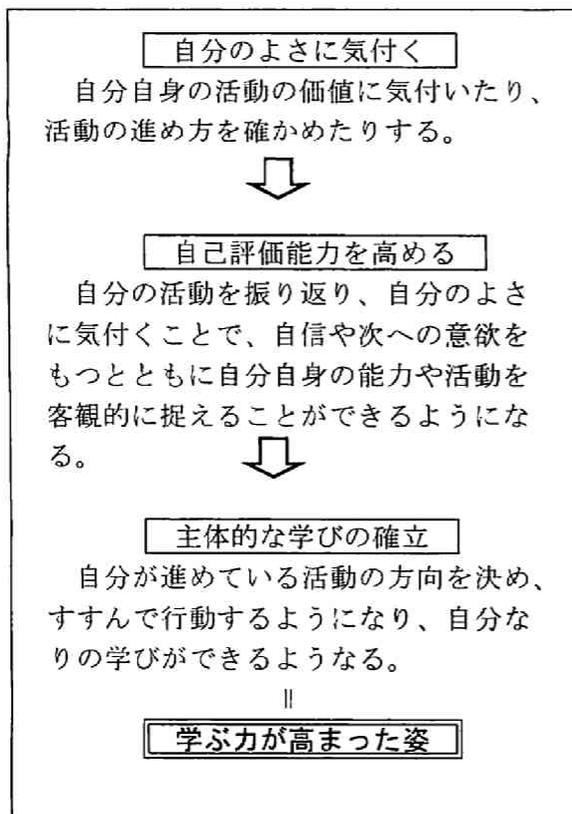
（※1）本部会ではどの単元にもあてはまるような学習過程を大きく次の3つに捉えている。

- ①「つかむ」（テーマと出会い、課題を設定する）
- ②「むかう」（課題を追究し、解決する）
- ③「生かす」（自分の考えをもち、今後の生活に生かそうとする）

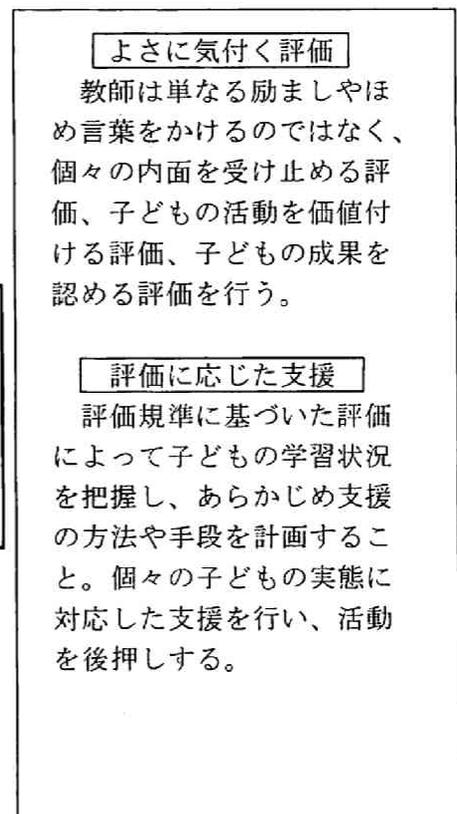
なお、4つの学ぶ力の具体的な内容については、それぞれの単元の評価・支援計画において、評価規準とそれに達成している子どもの姿として表すことにした。

(3) 自分のよさに気付くと学ぶ力が高まる

【子どもの学ぶ姿】



【指導と評価の一体化】



教師の働きかけ

3 研究仮説と研究内容

本研究では、研究仮説を以下のように設定した。

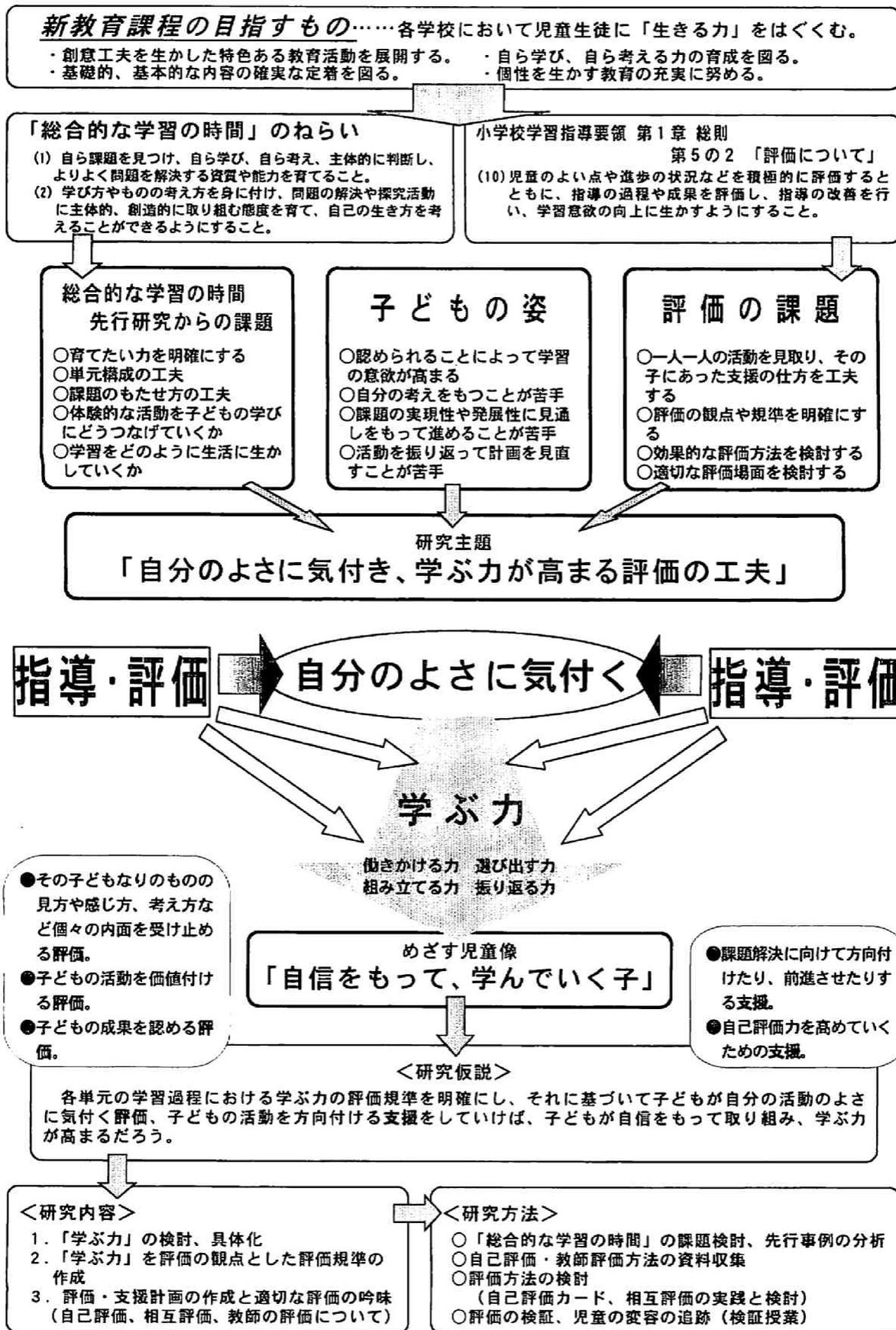
研究仮説

各単元の学習過程における学ぶ力の評価規準を明確にし、それに基づいて子どもが自分の活動のよさに気付く評価、子どもの活動を方向付ける支援をしていけば、自信をもって取り組み、学ぶ力が高まるだろう。

研究内容

- (1) 総合的な学習の時間を通して身に付けてほしい4つの学ぶ力（「働きかける力」「選び出す力」「組み立てる力」「振り返る力」）を設定する。
- (2) 学ぶ力を評価の観点とした評価規準を作成し、各単元ごとの活動計画の中に、評価・支援計画として位置付ける。
- (3) 評価・支援計画表を活用して授業を行い、適切な評価・支援の内容と方法を明確にする。
 - ・ その子どもなりのもので見方や感じ方、考え方など個々の内面を受け止める評価
 - ・ 子どもの活動を価値付ける評価
 - ・ 子どもの成果を認める評価
 - ・ 課題解決に向けて方向付けたり、前進させたりする支援
 - ・ 自己評価能力を高めていくための支援評価をすすめる際に、教師の評価と子ども自身による評価の2つの方向からせまり、個に応じた支援の在り方を探る。

4 研究構想図



Ⅱ 学ぶ力を高める指導と評価

1 指導と評価の内容

総合的な学習の時間は教師が目標を設定し指導計画を立て、子どもが自分で見通しをもって学ぶことができるようにしていく時間である。本部会は様々な場面で指導を行う中でも、活動したことを振り返り身に付いた力を意識できるように評価・支援を中心に研究を進めてきた。

最初に総合的な学習の時間を通して子どもに身に付けてほしい4つの学ぶ力を明確にした。次に学ぶ力を観点とした評価規準を作成した。そして、教師から見て指導を充実させるための評価と、子どもが自分の活動を振り返ることのできる自己評価を中心とした評価の手順と方法を考えた。

4つの学ぶ力を観点として、学習過程にそった評価規準表を作成する。

①教師の評価



ア 評価・支援計画の作成

評価規準表に基づいて、単元ごとの評価規準をつくり、達成したい子どもの姿、支援を考えておく。そして、活動計画にそって評価・支援計画を作成し、授業で活用する。(8ページ、12ページ参照)

イ 授業における評価

評価・支援計画に基づいて、一人一人の子どもの学習状況や実態に応じた支援を考える。個別の学習状況や教師の支援内容を書き込んだ記録簿などを前もって作成し授業中や授業後に活用する。(9ページ、14ページ参照)

②子ども自身による評価



ア 自己評価

自分の活動計画を明確にするとともに、自己評価を行い、次回の見通しをもつことができるような、自己評価カードを作成する。自分の目指す学ぶ姿に向かって自己評価を積み重ね、自己評価能力を高めていく。(10ページ、18ページ参照)

イ 相互評価

発表の場面で相互評価を行うだけでなく、単元の途中で意図的に評価する場を設定する。子ども同士でよさを認め合ったり調べている内容に質問や助言をし合ったりして、学習を深めていく。(11ページ、22ページ参照)

2 学ぶ力の評価規準

本部会では総合的な学習の時間を通して育成したい4つの力を観点として、学習過程に応じた評価規準を設定した。

《本部会が設定した評価規準表》

学習過程 育てたい 4つの力	つかむ 自分のもっている力に気付き、新たな課題をもつことができる。	むかう 今までの経験を生かして、様々な方法で追究することができる。	生かす 身に付いた力に気付き、生活に生かそうとする。
働きかける力	<ul style="list-style-type: none"> 問題意識をもって体験や観察に取り組む。 必要な情報をもとめ、互いに情報交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の決めた方法で調べる。 自分なりの考えを伝えて、意見交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもって自ら関わろうとする。
選び出す力	<ul style="list-style-type: none"> 経験や既習の知識をもとに追究する課題を考える。 様々な追究方法の中から適切な調べ方を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を選び整理する。 友達の活動と比べて、共通点・相違点に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の取り組んできた活動と生活とのつながりを見付ける。
組み立てる力	<ul style="list-style-type: none"> 興味や関心をもとに自分なりの課題をつくる。 見通しをもって計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ情報をもとに自分の考えをもつ。 意見や助言をもとに計画を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を示しながら自分の考えをまとめる。
振り返る力	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習してきたことや、自分の生活を思い起こす。 自分にできることか見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動してきたことをたどりながら次のめあてをもつ。 追究可能な課題であるか見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の取り組んできた活動を意味付ける。

今後の生活・学習の中で

・単元終了後、身に付いた力が家庭や地域での生活に結び付いたり、次の学習につながっていたりする場面がある。そのような子どもの姿を教師が認め、価値付けていく。

この評価規準表を基にし、各学校で子どもの実態や学年の発達段階を踏まえ、単元の内容に応じた評価規準を作成する。

3 教師の評価

(1) 評価・支援計画の作成

教師が子どもの活動への価値付け、方向付けを適切かつ効果的に行うために單元ごとの評価規準を作成し、それに基づいて学習過程にそった評価・支援計画を作成する。

《評価・支援計画の作成例》

單元名 人にも自然にもやさしく 一住みやすい街みなみ野一
 單元目標 この街に住む一人として、自分もこの街をつくっている一人であるという自覚がもてるようにし、今自分ができることがあることに気付き実行できるようにする。

評価規準 【7ページの評価規準表をもとに單元ごとの評価規準を作成する。】

	つかむ	むかう	生かす
働きかける力	課題について周りの人と情報交換ができる。	自分が決めた方法で調べることができる。	自分の考えをもって行動することができる。
選び出す力	自分の経験や既習の知識から課題を考えることができる。 課題を解決するためのよりよい調べ方を考えることができる。	調べた情報の中から必要な情報はどれか考え取捨選択することができる。	調べたこと、考えたことを効果的に伝えることができる。 自分の取り組んできたことと、自分の生活とのつながりを見つめることができる。
組み立てる力	追究の仕方やまとめ方の見通しをもって課題を設定したり計画を立てたりすることができる。	選んだ情報をもとに自分の考えをもつことができる。	根拠を示しながら自分の考えをまとめることができる。
振り返る力	めあてにあった課題、計画であるか見直すことができる。	自分の追究活動を見直し、次のめあてをもつことができる。	自分が取り組んできた活動を意味づけることができる。

評価・支援計画 【評価規準に対応させてそれぞれの学習過程における具体的な子どもの姿を想定し、評価・支援の内容や方法を考えておくことにより、適切に評価・支援できるようにし、一人一人の活動を充実させる。】

	つかむ	むかう	生かす
働きかける力	<input checked="" type="checkbox"/> 先生、友達、先輩に相談する。 <input checked="" type="checkbox"/> 取材先へ依頼をする。 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの出来事を想起させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生との交流の場の設定。 <input checked="" type="checkbox"/> 取材先への依頼。 <input checked="" type="checkbox"/> 取材の仕方の指導。 <input checked="" type="checkbox"/> 学びの道筋カード <input checked="" type="checkbox"/> 発表	<input checked="" type="checkbox"/> 実際に人とふれ合ったり自分で確かめたりしながら調べる。 <input checked="" type="checkbox"/> 積極的に質問する。 <input checked="" type="checkbox"/> 相手や内容に応じた伝え方を考える。 <input checked="" type="checkbox"/> 活動のよさを認める。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的な情報交換の場、意見交流の場の設定。 <input checked="" type="checkbox"/> 学びの道筋カード <input checked="" type="checkbox"/> 行動観察記録ノート	<input checked="" type="checkbox"/> 自分が決めた方法で発表する。 <input checked="" type="checkbox"/> 発表内容に添った意見交換
選び出す力	<input checked="" type="checkbox"/> 評価規準に達成できるようにするための支援の方法を考えておく。 <input checked="" type="checkbox"/> 聞き取り	<input checked="" type="checkbox"/> よりよい活動の仕方を探ることができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 集めた情報を活用しながら整理する。 <input checked="" type="checkbox"/> 調べ方の相談にのる。 <input checked="" type="checkbox"/> わかったこと、考えたことをしっかり記録しておくよう助言する。	<input checked="" type="checkbox"/> 効果的な表現方法を考える。 <input checked="" type="checkbox"/> 自分ができることを考える。 <input checked="" type="checkbox"/> デイバートの指導。 <input checked="" type="checkbox"/> 発表のためのチェックシートの作成。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常の発表の場で意見

達成している子どもの姿 支援 評価方法

(2) 授業の評価・支援の実際

前ページで、単元の最初に評価・支援の全体計画を立てることを説明した。教師は毎時間の授業に向けて、子ども一人一人の活動内容や活動状況などを記入するための記録簿を作成することが大切である。そのことによって、授業中、授業後に一人一人の子どもに応じた適切な評価・支援をすることができる。

《教師の記録簿を授業で使用した例》

単元名 向原のすてきな人 見つけた

単元目標 地域に住む様々な人とのかかわり合いをとおして、自分を見つめ直し、自己の生活に生かそうとする心を育てる。

「教師の記録簿への記入例」

子どものこの時間の活動内容をきちんと把握しておく

子どもの本時の活動予定を基に個に応じた支援を考えておく。

本時のねらい ゴミについて自分たちが決めた方法で調べることができる。

名前	単元の課題	学 ぶ 力				本時の取り組み	本時の支援	本時の活動の様子
		働	選	組	振			
Y. A	道にゴミを捨てない町	A	A	B	A	ゴミ集めの仕方を調べる。	収集場所の表示に気付くようにする。	収集の仕組みをする。(組)
I. E	向原のリサイクル	B	B	B	B	町の人へインタビューをする。	インタビューの内容をチェックする。	自ら進んで質問をした。(働)
K. S	身近な物のリサイクル	A	B	A	B	リサイクルセンターで活動。	何を調べるかを明確にする。	牛乳パックに着目していた。(選)
~~~~~								
Y. T	学校のゴミを減らす	B	B	A	A	主事さんに話を聞きに行く。	メモを持って、話を聞くようにする。	要点をメモに書いていた。(働)
H. K	身近な物のリサイクル	A	B	B	B	リサイクルできるものを調べる。	調べ方の確認をする。	ペットボトルに着目していた。(選)

現在の子どもの力を把握しておくことで、さらに伸ばしたい力や支援のポイントが明らかになる。

授業中に気が付いたことを4つの学ぶ力に合わせて簡単に記入する。授業後、子どもの自己評価カードへ支援の言葉を書くときの参考資料とする。

授業後、この記録簿を見たり、次ページで紹介する子どもの自己評価カードに目を通したりすることによって、次の時間の個に応じた支援が明確になっていく。

## 4 子ども自身による評価

### (1) 自己評価について

自分の学びの道筋を視覚的に見ることができ、子ども自身で活動を振り返り次の活動に生かすことができるような自己評価カードを作成した。評価する時間を短時間にして、活動の満足度や進歩が明らかになるよう以下の2つのカードを使った。

#### ① 学びの道筋カード

- ・学習終了時に記入する。
- ・あらかじめ教師がめあてを掲示しておく。
- ・4つの学ぶ力にあった活動を行った場合には教師がシールを貼るなど評価する。

前時に今日の学習のめあてを記入する。

4つの学ぶ力のめあてを書く。

活動を振り返り自分の活動状況により付箋の位置を決める。

課題を調べることができる。集めることができる。

友達から図書室に関するヒントをもらった。

4つの学ぶ力に合わせて、身に付いた力を教師が評価する。

友達のアドバイスやよかったところなど書いたものはる。

満足度

今日一番がんばったこと、わかったことを書く。

#### ② 振り返りカード

各学習過程（つかむ・むかう・生かす）が終了したときに行う。

学びの道筋カードを見ながら振り返り、自分の力がどのくらい伸びたかを意識する。

(働かせる力)  
自分が決めた方法で調べることができる。

(振り返る力)  
活動してきたことをたどりながら、次のめあてをもつことができる。

(選び出す力)  
必要な情報を集めて、上手に整理することができる。

(組み立てる力)  
活動してきたことから、自分の考えをもつことができる。

大きい数字ほど力がついてると自己評価する。

4つの学ぶ力の具体的なめあてを提示する。

むかう段階終了時の振り返りカード

## (2) 相互評価について

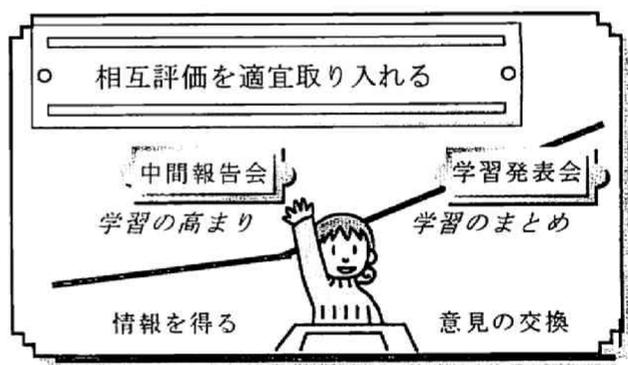
相互評価の機会を設定することにより、情報交換を行うことや、互いのよさを認め合ったり助言をし合ったりすることができる。そこで単元の途中での中間報告会や単元の終わりの学習発表会において相互評価の場面を取り入れることとした。

### ① 中間報告会

自分が取り組んできたことを友達に報告してアドバイスをもらうことや、情報交換をすることにより、計画を修正することや再度方向付けすることなど、今後の活動に生かしていくことができる相互評価を行う。

### ② 学習発表会

自分が取り組んできたことを振り返りながら発表し、互いの意見を交換することにより、友達の質問に答えたり、認め合ったりする学習のまとめの場として行う。



### 《中間報告会の例から》

4つの学ぶ力を子どもに提示し、中間報告会の中で、認める（友だちの活動を価値付ける）・質問する（自分の活動と比べて、質問をする）・アドバイス（自分の活動から情報を提供する）の3種類のカードを使いながら、相互評価を行う。

#### ① 中間報告会の前に計画書を完成させ、掲示し始めた段階。

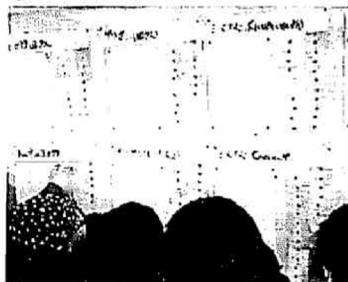


計画書を書いたけど、  
どうかな？

見通しをもち、活動を進めていくときに、計画書を掲示しいつでも振り返ることができるようにする。自信を持って活動をしていくために…

子どもたちは自分の経験やもっている知識の中で課題を解決しようと努力する。そのようなときに、友だちの活動に目を向けてよさに気付いたり、自分の活動と比べながら生かせるところを探したりできる機会を、日常からもつようにする。

#### ② 中間報告会を通して、友だちから相互評価カードをもらった段階



こんなに  
アドバイスを  
もらえたよ。

今までは自分の活動だけを意識していたが、友だちの活動に気付くことや、認め合う学習を進めていく。

中間報告会を行うことにより、アドバイスをもらって自分の活動を見直しさらによりよい方法を考えたり、友だちに認められることによって自分の活動に自信をもったりすることができる。

### III 実践事例

## 事例1 「活動計画/評価・支援計画」に基づいた実践例 (5年 世界の味パーティー)

- 単元の  
①外国の  
②外国の  
③友達と

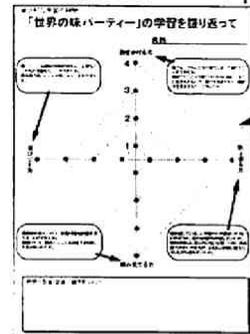
●活動計画/評価・支援計画 (全172/3時間) (第1次の流れ、■ ■ ■ ■ ■ ▶ 第

自己評価カード1  
(学びの道筋カード)

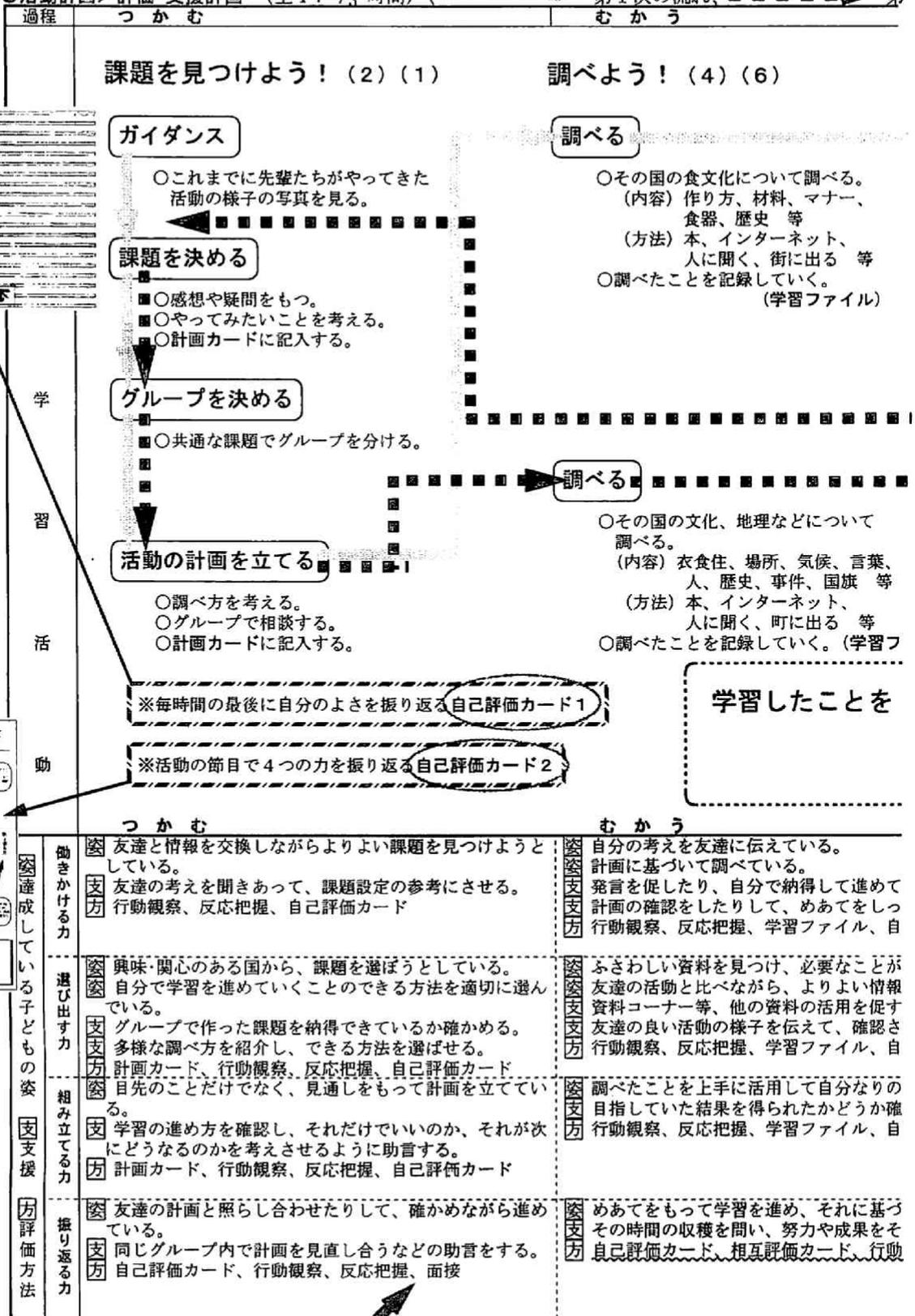


※P10参照

自己評価カード2  
(振り返りカード)



※P10参照



指導と評価の一体化をめざした「評価・支援計画」



●授業における評価の実際

○評価・支援計画をもとにした個別の記録簿

前述の「評価・支援計画」は単元の活動計画を立てると同時に作成し、実際の授業の前には、さらに個に応じた計画を作成しておく。右の表は座席表を利用した記録簿の例である。その時間に特に重点的に指導したいと考える児童については太枠で囲んだり、網掛けしたりするなどして予め決めておき、計画的に評価する。座席表の上段には個の実態やこれまでの活動内容、評価などを、下段にはその児童の達成目標や支援などを記す。

ブラジル (ブラジル風餃子)		ベルギー (ワッフル)
<p>Y. A 【選△】 本で人口を調べる。インターネットでは上手に調べられない。 【選】調べ方を工夫する。 【支】インターネットでの調べ方を指導したり、図書館を紹介する。</p>	<p>I. A 【働○】 ブラジルに祖母がいて夏に訪れている。インターネットでは収穫なし。 【組】調べたことを上手にまとめる。 【支】得た資料をきちんと理解しているか確認する。</p>	<p>S. N 【働○】 友達が調べたことをもとに模造紙にまとめている。 【組】調べたことを上手にまとめる。 【支】まとめている内容を理解しているか確認する。</p>
<p>K. S 【選○】 本でブラジルの言葉を調べる。インターネットでは収穫なし。 【働】協力しあってまと</p>	<p>Y. Y 【働△選△】 インターネットで上手に調べられない。友達の調べたことを写している。 【働】協力しあってまと</p>	

○記録簿を生かした指導の例

(1) インターネットで調べている児童に…

子どもの姿 知りたいことをなかなか見つけられないでいる時

→ 支援 あきらめないで、他の方法でも調べてみよう。友達と一緒に調べたり、知っている人に教わったりしてもいいよ。

子どもの姿 良い資料を見つけて喜んでいる時



→ 支援 その資料どうやって見つけたの？ すごいね。調べ方を友達にも教えてあげてね。

→ 支援 材料や作り方をとても詳しく調べたね。本物のような味が作れるといいね。

この児童は、このあと自宅で母親にも手伝ってもらって、料理の練習をしてきた。パーティー当日ははりきっておいしいカレーを作り上げた。

(2) 模造紙に調べたことをまとめている児童に…

子どもの姿 自分のやるべきことがわからず活動できずにいる時

→ 支援 今日やることをグループで確認して、仕事を分担しよう。自分のやりたいことをみんなに伝えてみようね。

子どもの姿 調べたことを効果的にまとめられずにいる時

→ 支援 とってもたくさん調べてあるね。どんな風にまとめてみたい？ 大事なことを選んでみようよ。



この児童は、「調べたことの中には無駄なものも多かったので、考えながら調べようと思う」と、あとで活動を振り返っていた。

●考察

「評価・支援計画」をもとにして、実際の授業の前には一人一人の活動に沿った個別の「評価・支援計画」を作成した。上記のようにこれまでの活動の様子や評価の記録を蓄積し、それに基づいて毎時間10名前後の児童について重点的に計画を立てて授業に臨んだことによって、一人一人を丁寧に見取り、よりきめ細かな指導が可能となった。

## 事例2 子どもの活動を4つの学ぶ力に価値付けする評価の例

(5年 人にも自然にもやさしく一住みやすい街みなみ野一)

○評価・支援計画をもとに子どもたちの活動を見取り、4つの学ぶ力に価値付けした。また、子どもたちにも分かりやすい言葉で学びの道筋カード(10頁参照)に4つの力を提示し、それを意識しながら活動できるようにした。以下に「むかう」過程における評価・支援の実例を紹介する。

●単元のねらい この街に住む一人として、自分もこの街をつくっている一員であるという自覚がもてるようにし、今自分にもできることがあることに気づき実行できるようにする。

### ●各学習過程における「達成している子どもの姿」

	つかむ	むかう	生かす
働きかける力	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生、友達、先輩などに相談をすることができる。</li> <li>取材先への依頼をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に人とふれ合ったり、自分で確かめたりしながら調べることができる。 <b>事例1</b></li> <li>積極的に行動したり質問したりすることができる。 <b>事例2</b></li> <li>友達と協力して行動することができる。</li> <li>相手や内容に応じた伝え方ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が決めた方法で発表することができる。</li> <li>発表内容にそった意見交流ができる。</li> <li>自分ができていることを実行することができる。</li> <li>身に付けた知識を生活の中で生かすことができる。</li> </ul>
選り出す力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で追究できる課題を考えることができる。</li> <li>聞きたいこと調べたいことを決めることができる。</li> <li>取材先を決めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい活動の仕方を考えることができる。 <b>事例3</b></li> <li>調べ方の軌道修正をすることができる。</li> <li>調べた情報を活用する仕方を考えながら整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な表現方法を考えることができる。</li> <li>自分ができていることを決めることができる。</li> <li>次の課題を考えている。</li> </ul>
組み立てる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ方や広め方のイメージを持って課題を決めることができる。</li> <li>広め方深め方を考えながら計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた内容を自分なりに分析し、まとめることができる。 <b>事例4</b></li> <li>自分の考えがもつことができる。</li> <li>新たな疑問をもったり、調査方法を考えたりすることができる。 <b>事例5</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた内容を自分なりに分析し、まとめることができる。</li> </ul>
振り返る力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分にできる課題、活動計画であるか、活動を想定しながら見直すことができる。</li> <li>計画が具体的なものであるか見直すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの道筋カードに記入し、次のめあてをもつことができる。 <b>事例6</b></li> <li>活動のよさに気付くことができる。 <b>事例7</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの道筋カードに記入し、次のめあてをもつことができる。</li> <li>活動のよさに気付くことができる。</li> <li>自分の成長に気付くことができる。</li> </ul>

### ●評価・支援の実例

#### 事例1

#### ねばり強く活動し、活動に広がりが見られた例(働きかける力)

子どもの姿

クリニックセンターでインタビューしようと思ったけれど、ハプニングがあったとれなかった。今度からしっかり連絡を取っておこうと思った。  
(学びの道筋カードより)

教師の  
評価・支援

お年寄りにとって住みやすい街について調べている子が、近くのクリニックセンターに、お年寄りが大勢いらっしゃるのではないかと考え、インタビューに行くことにした。一度連絡をしたのだが、趣旨がうまく伝わっておらず、インタビューができなかった。その後、子どもたちと相談をして、患者さんやクリニックに迷惑がかからないようにするため、待合室でのインタビューではなく、アンケート用紙を置かせてもらえるようお願いに行った。アンケート用紙を置かせていただいただけでなく、先生からお年寄りの患者さんのようすや、日頃話題になっていることなども詳しく教えていただき、その後の活動がバス路線のことにも広がった。

活動の変容

クリニックセンターの先生から「患者さんからバス路線が1本しかなくて不便だと相談される」という話を聞いた。どのくらいの人かそう思っているのか調べて、バス会社の人にも言いたいと思う。整体院にも電話をして、アンケート用紙を置かせてもらいにいった。一度ハプニングがあったのでドキドキしたけれど、一生懸命説明をお願いすることができた。(学びの道筋カードより)

## 事例2 質問ができたことにより、活動が積極的になった例（働きかける力）

子どもの姿

盲学校に行きました。体験はできましたが、質問はできませんでした。  
(学びの道筋カードより)



教師の  
評価・支援

子どもたちは、取材する相手の方と身近に接すると自分の思ったことが言えるようになったり、その方の人となりを感じることができるようになったりする。盲学校へは同じ課題をもった児童20人ほどで行ったため、質問ができない児童がいた。そこで、視覚に障害がある方をお招きした際に、子どもが校内を分担して案内するという活動を計画し、身近に接する中で気軽に質問ができるようにした。



活動の変容

〇〇さんに質問していろいろなことがわかりました。お金の区別は、大きさや穴があるかどうかで判断するそうです。  
〇〇さんをご案内したとき、すらすら歩いていたので「すごいなあ」と思いました。  
(学びの道筋カードより)

## 事例3 よりよい調べ方が考えられた例（選び出す力）

子どもの姿

学校のいろいろなところを、ギブスを付けて歩いてみた。階段は上りよりも下りの方がこわくて、ふつうの道も歩くのが大変だった。  
(学びの道筋カードより)



教師の  
評価・支援

調べ方はギブスだけでいいのかと子どもたちに問いかけたところ、中学生が体験をしたと言うニュースを見たことがあるから、中学校の先生に聞いてみようということになった。その後中学校にあるシニア体験セットを借りて体験をした。



活動の変容

白内障体験のめがねをかけるとフェンスや植木が見えにくくて、ぶつかりそうになる。それに階段の下りは段差が見えないのでつまずきそうになる。中学校に行って聞いてみたので、いろいろな体験ができた。  
(学びの道筋カードより)

## 事例4 インタビューでわかったことを確かめて、自分の考えをもとうとしている例（組み立てる力）

子どもの姿

今までたくさんインタビューをしました。そしてわかってきたことは、同じぐらいの年の人は思っていることがだいたい同じとことです。老人は坂のこと、女性は店のことなどとなっています。本当にそうなのか、確かめにも行きます。  
(学びの道筋カードより)



教師の  
評価・支援

インタビューした内容が、年代別に丁寧にまとめられていた。インタビューしたことを確かめに行くということなので、どのように確かめるのか相談をした。道路については、幅や長ささを測ってみることにした。



活動の変容

今日は、道路について調べました。広かったりせまかったり、長い坂もありました。3丁目は坂が多かったです。  
坂の距離を測りました。長い坂が多かったです。自転車を引いて上る人が、4~5人いました。  
(学びの道筋カードより)

## 事例5 相手の立場に立ってアンケートの内容が考えられた例（組み立てる力）

子どもの姿

クリニックにお願いしたアンケートを回収したところ、回答が2枚しか入っておらず、がっかりしていた。



教師の  
評価・支援

なぜ2枚しか入っていなかったのか、一緒に考えた。自分がアンケートに答える時のことや、お年寄り立場になって考えることで、アンケートの取り方を変えることにした。



活動の変容

文を書いてもらうより、いくつかの中から選んでもらう方が答えやすいかもしれない。

この街で、不便だと思うことは何ですか？

はじめのアンケート

この街で不便だと思うことに、3つ〇をしてください。  
1.坂が多い 2.交番がない  
3.段差が多い 4.公園が少ない  
5.バス路線が1つしかない

6.お店の……  
作り直したアンケート

### 事例6

#### 自分の活動を見直し、次のめあてをもつことができた例（振り返る力）

子どもの姿

今日はインタビューに行こうとしたんだけど、内容がせまかったので、なおしたら調べる幅も広げられたし、分かりやすくなったので良かったし、次の活動の時には、ちゃんとインタビューに行けそうよかった。  
(学びの道筋カードより)



教師の  
評価・支援

インタビューの内容を見直し、自分たちが知りたいことが調べられる内容にするようアドバイスした。インタビューの内容も様々な意見が聞けるものになり、次の時間には張り切ってインタビューしていた。



活動の変容

駅周辺でインタビューしました。「バイパスができれば使いたいですか。」と聞いたら「どこにできるんですか。」と聞かれ困ったので、今度は公団の方からいただいた地図をもっていこうと思いました。  
(学びの道筋カードより)

### 事例7

#### 自分の活動に自信をもつことができた例（振り返る力）

子どもの姿

靴底のリサイクルに取り組みたいと保護者の会で訴えるために、リハーサルを何度もして、熱心に準備をしていた。



教師の  
評価・支援

新聞記事を見て「靴底のリサイクルをしたい」と考え、あちこちに取材をした結果、あるメーカーの靴でないとリサイクルできないことがわかった。そこで、子どもたちと相談をして、お母さんたちの意見を聞いてみることにした。保護者の会の役員の方々の前で、熱心に訴えることができた。



活動の変容

お母さんたちの役員会に、靴底のリサイクルについて話をしに行った。うまく説明できてよかった。質問されて答えられなかったことを調べようと思う。  
(学びの道筋カードより)

### ●考察

望ましい活動の姿を4つの力に分け提示したことにより、子どもたちはどのような調べ方をしたらいいのかよく考えていた。また、インターネットや本は、取材で足りないところを補うために使い、実際に人とふれ合ったり、自分で確かめたりする活動が中心になった。調べたことを整理したり、「そこから考えられることは何か」についてグループで話し合ったりするような、これまでに見られなかった活動も行えるようになった。



○子どもが活動の振り返りを記入し、教師が助言を書き入れることにより、子ども自身が自分の活動のよさや課題に気付いたり、次の見通しをもったりすることをねらいとしたカードである。このカードを毎時間活用することによって、活動につながりをもたせ、自分の力を意識しながら自ら学習を確立していくことができるかどうか検証したいと考えた。

学習過程 **むかう(15時間)**

- 個々の課題を追究する。
- 調べたことをまとめて、報告する。
- 各学級の計画案を発表し、それぞれのよさを生かして学年の案を作る。

むかう

6

名前

めあて

- 自分なりの考えを伝え、意見交流することができる。【聞きかける力】
- 目的をもって情報を集め、分類・整理することができる。【並び出す力】
- 友達や先生からのアドバイスをもとに、計画を立てることができる。【組み立てる力】
- 友達の発表を聞いて、自分の課題を修正することができる。【物がある力】

学習計画	調べ方	調べたこと	調べ方	調べたこと	調べ方	調べたこと	調べ方	調べたこと
ヒナノカド	了	い	発表	発表	発表	発表	発表	発表

満足度

友達からのアドバイス

「みんなの意見が聞けてよかった。もうちょっと資料を調べたほうがいいかも。」

先生から聞いたことをまとめた。

「みんなの意見が聞けてよかった。」

調べたこと

「みんなの意見が聞けてよかった。」

友達に確認した。

「みんなの意見が聞けてよかった。」

友達に確認した。

「みんなの意見が聞けてよかった。」

子どもをどのように見取ったか

調べ方が単調で、資料が思うように見つからない。

友達から自分が知りたい情報が出ているホームページ名を教えてもらい、「みんなの意見が聞けてよかった。」と書いている。

思っていたよりうまく資料が見つからず、「全然進まなかった。」と書いている。満足度が表す付箋の位置も下がっている。

次時以後の学習の見通しがもっているが、それが自分のよさであり、組み立てる力につながっていることは意識していない。

教師の支援

調べ方について、報告会で友達に聞いてみるよう助言した。

友達に、もう一度ホームページ名を確認してみるよう助言した。

見通しをもって学習計画を立て直すことができたことを賞賛した。

考察

○子どもの学習活動がうまく進んでいるかどうかを、付箋の言葉と貼ってある位置によって判断することができ、学習を方向付ける個々に応じた支援ができた。

○友達からのアドバイスを貼ったり、友達とカードを見せ合ったりすることが、よりていねいに自己の活動を振り返る姿勢につながっていった。

- 19 -





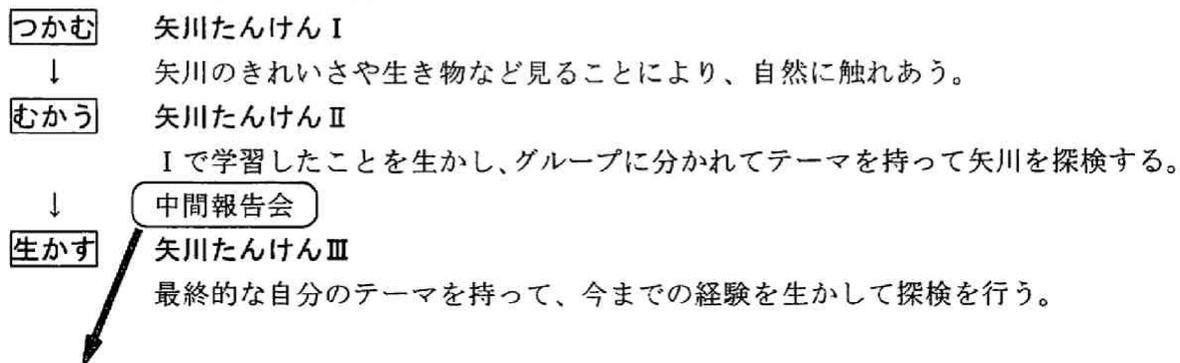
## 事例4 相互評価で活動を振り返り 課題を高めていった例 (4年 矢川たんけん)

毎時間行う教師の評価や自己評価だけではなく、活動の途中で子どもが相互評価を行う中間報告会を取り入れ、質の高い課題設定を行う事例を紹介する。

### ●単元のねらい

進んで地域の中の素材にかかわり、身近な自然の様子に気付く。3回の探検を通して、自分の学習の道筋を振り返り、自分の力でできそうなことを実践する。

### ●学習の流れ 探検を3回に分ける



### ●中間報告会を通して

今回の学習で子どもたちは学ぶ力を高め個々の課題を高めていくことを意識している。矢川たんけんⅡからⅢに移るとき、子ども同士で質問・アドバイス・価値付けをする中間発表会を開いた。

### 活動時

矢川たんけんⅡ



**子ども**

シマアメンボのいる場所を調べよう。

**教師**

子どもたちの自己評価カードを見て、報告会での流れ(支援)を作っておく。活動を見てつまづいているところなどを整理しておく。

ゲストティーチャーの方から、「シマアメンボがいたら、きれいな川であるという証拠です。」と、聞いて課題を設定していた。

### 報告直前



**子ども**

シマアメンボのヒントをもらおう。

**教師**

活動してきたことを積極的に発表できるように、相談に乗る。活動内容がにているグループの紹介も行う。

矢川たんけんⅡでは、自分なりの活動をすることができたが、他のグループの情報も気になり出していた。

# 報告会

## 子どもの動き

## 教師の動き

### ① 掲示板の確認

自分の活動が見えるように、活動内容を掲示板で確認する。



本当に知りたい情報や、グループの特色を生かすように、相談に応じる。

### ② 中間報告会

1分間で自分たちが行ってきた活動を報告する。相互評価カードを使い、質問などを行う。



報告後、相互評価カードを書く時間を設ける。但し、全員書くことを強制しない。教師がカード回収し、見ながら掲示をする。

### ③ 振り返り

相互評価カードを見て、自分の活動を振り返る。次の計画を立てるときの情報とする。



掲示した後は、相互評価カードと関連した支援を行う。

相互評価カード 3種類

発表を聞いた後、「力があるね（認める）」・「質問します」・「アドバイス」の3種類のカードで相互評価する。

力があるね（働きかける力）

自信を持って発表していたね。

力があるね（選び出す力）

シマアメンボの動くスピードを調べたのがすごい。

力があるね（組み立てる力）

「まとめ」がわかりやすい。Ⅲでがんばってね。

力があるね（振り返る力）

矢川環境のことをシマアメンボで確認できたね。

質問します

矢川の全部の場所でシマアメンボを調べましたか。

アドバイス

水がきれいかどうか、パックテストでわかるよ。

# 報告会后

矢川たんけんⅢ



シマアメンボと水のきれいさをパックテストでたしかめよう。

パックテスト  
水質を調べる試薬

教師

新たな課題を設定することができるよう、一緒に掲示板を見て課題を考える。そして、課題の内容が高まったことを賞賛する。

矢川たんけんⅡの経験をいかして、更に質の高い課題を設定することができた。自信を持って出発することができる。

## ● 考察

相互評価を行うことにより、普段は教師と子どもとの間で行われることが多い評価を、子ども同士で評価することができる。また互いに認め合うことにより自らの課題を高めていく。

適切な評価は、「教師が場を設定し子どもが活動を進めやすいようにする。」ことを意識して行っていく必要がある。

## IV 研究の成果と今後の課題

本研究では子どもたちが学習活動を進める中で、自分の学びを振り返り、よさに気付きながら自分自身で学びを確立していけるような評価と支援の在り方について研究を進めてきた。以下、研究の成果と今後の課題について述べる。

### 1 研究の成果

#### (1) 教師の評価について

- ① 学ぶ力を観点とした評価規準表を基に、単元の評価・支援計画を作成することで、子どもが少しずつ自信をもって主体的に取り組む姿が見られるようになった。  
学ぶ力を明確にしたことにより、教師が4つの力を基にした評価と支援をあらかじめ考えることができ、子どもの活動を価値付けたり、方向付けたりするのに役だった。
- ② 記録簿を活用することで、子どもの変容していく姿が見取れた。  
単元の評価・支援計画と照らし合わせながら記録簿に活動状況を記入していくことにより、子どもの学習の過程がはっきりと見え、活動記録の蓄積になった。また、この記録簿を基にしながら、個に応じた意図的な支援を繰り返し行うことができ、子どもが変容していく姿をこの記録簿から見取ることができた。

#### (2) 子ども自身による評価について

- ① 「学びの道筋カード」を活用した自己評価をすることで、子ども自身が自分の成長に気付くことができた。  
このカードによって自分の活動内容や活動に取り組む姿勢、活動の軌跡を子ども自身が振り返ることができた。また、子どもたちが活動を振り返りながら、どのような力が自分に身に付いているのか意識することによって、自己評価能力を高める一助とすることができた。さらに、教師が見落としとしてしまっていた活動の状況を知ることができるので、その後の個に応じた指導に、生かすことができた。  
活動の節目ごとに行う「振り返りカード」では、4つの力を意識した振り返りを子ども自身がすることにより、子どもが自分の成長に気付く、自信をもち、次の活動につなげることができた。
- ② 中間報告会の中に相互評価の場を設定することにより、自らの課題を高めることができた。  
活動の途中に中間報告会などの相互評価の場を設定することで、情報交換を行って必要な情報を集めたり、自分の活動の価値に気付いたり、また、友達の活動のよさを自分の活動の中に生かしたりすることができた。

### 2 今後の課題

#### (1) 学ぶ力の評価規準表の再構成

4つの学ぶ力に基づいた評価規準を作成したが、よりさまざまな場面での子どもの姿を拾い上げ、学ぶ力に対応したさらに具体的な文言に整理していく。

#### (2) さらに活用しやすい評価・支援計画の作成

子どもの活動を見取るための記録簿や評価・支援計画の作成において、さらに活用しやすくなるように形式や項目作りに向け、実際の活動を通しながら改善していく。

#### (3) 実用的な自己評価カード・相互評価のより有効な場面と形式

自己評価では、「学びの道筋カード」「振り返りカード」の内容と使い方を工夫・改善し子どもの学ぶ力が高まることにつながるものにしていく。また、報告会などの相互評価の有効な場面と形式についてさらに検討していく。